別紙様式1

令和7年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立大和中学校　　校番（ 30 ）

a 学校教育目標	学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）他者と協働し、課題の解決に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】（自校の将来像）生徒が「学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域にとって「地域の宝」と思える学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	基礎・基本の定着を図るため、授業改善を推進する。	①「R80」を核とした授業デザインをもとに、振り返りの充実を図ることで授業改善に努める。 ②「選択肢」と「自己決定」のある単元開発を行う。 ③学力に課題のある生徒への個別指導を計画的に行うとともに、放課後学習等の充実を図る。	①「授業がよくわかる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】 ②学力定着調査偏差値平均【教務】	①85% ②50										
豊かな心と健やかな体	積極的生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	生徒理解に努め、組織的な生徒指導・生徒支援を進める。	①「ふれあい教室」の有効活用、SCや関係機関との連携など、組織的な不登校支援を進める。 ②定期的な個人面接や生徒支援委員会等の実施により生徒理解及び情報の共有に努める。	①週1回の生徒支援（生徒指導）委員会【生徒指導】 ②「学校が楽しい」という生徒アンケートの肯定的評価【生徒指導】	①100% ②85%										
		新たな価値を創造する資質・能力の育成に向けて、探究的な「総合的な学習の時間」を充実させる。	①探究的な学びを中核としたカリキュラムの開発・実践を行い、成果をまとめる。 ②小中が連携し、これまで培ってきたキャリア教育の実践を継続・発展させる。	①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分で取り組んでいる」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%										
		基本的生活習慣を確立させる。	①金のルール「早寝・早起き・朝ごはん・読書・挨拶・靴そろえ」の向上を図る。 ②特にスクリーンタイムの改善を図る。	①「金のルール」アンケートの肯定的評価【保健・生徒指導】	①80%										
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	地域に貢献する体験活動や自治活動を推進する。	①地域の方とのつながりを大切にし、日頃の感謝の気持ちをもって地域貢献活動に取り組む。 ②生徒会活動、委員会活動を活性化させ、自治的な活動を進める。	①「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という生徒アンケートの肯定的評価【研究】	①80%										
		業務改善を行い、働き方改革を進める。	・業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ・定時退校日を徹底し、在校時間の縮減を図る。	①時間外勤務が月45時間以内の職員の割合（年平均）【教頭】	①80%										

【j：自己評価　評価】A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。